

3. ふじいでらの村相撲(3) 「藤井寺の力士と今につながる藤井寺の相撲」

1) 藤井寺の村相撲力士

藤井寺、道明寺天満宮、誉田八幡宮などの祭礼時に大活躍したと思われませんが詳しいことはよくわかりません。そこで戦後に活躍した藤井寺の村相撲の力士を調べてみました。

その結果昭和20年代の二人の村相撲の力士の存在を確認することができました。

【戦後の村相撲力士 男山と井関龍】

船橋出身の男山と古室出身の井関龍はご親族の方から聞き取ることでできた藤井寺の村相撲力士です。

男山は5人抜き勝ち抜き戦で見事勝ち越して祝儀袋がはさまれた御幣棒(墨書の文字有り)を貰いました。他に賞品として布団に使用する布などもあったそうです。

一方井関龍は男山より2年先輩。15歳の少年時代から相撲が大好きで、道明寺天満宮、大井、松原の屯倉神社、瓜破などで相撲を取っていました。やはり、御幣棒を貰っています。この井関龍は元大相撲力士の泉洋(いずみなだ 泉佐野出身)との対戦で見事に勝ったのですが、なんと日本相撲協会から声がかかりスカウトされたのは負けた泉洋だったというエピソードの持ち主です。

二人の共通点は共に小さい時から身体が大きくて強かったこと。同じ学校の先生に相撲を習っていたことです。二人のご家族のかたもお互い相手の村相撲力士のことは記憶があるとのことでした。

二人が活躍したのは昭和 25、6 年頃になります。おそらく藤井寺の村相撲として最後の力士だったのではないのでしょうか。

2) 元大相撲力士 花の国

船橋出身の元大相撲力士「花の国」(本名 野口明宏)は小さいころから体も大きく、村相撲の父親(上記の男山)に毎日のように鍛えられていました。中学校を卒業の時に「船橋に強い子がいる」ということで元大関魁傑にスカウトされます。東京に行く時、家族や船橋の村の人たちに「鏡割り」で祝ってもらったそうです。

初土俵は昭和 50 年(1975 年)3 月(大坂)場所。辛くて長い下積時代も歯を食いしばって努力した結果、昭和 63 年(1988 年)大阪 3 月場所で新入幕を果たします。重い腰を生かした典型的な四つ相撲で、右四つから正攻法の攻めで番付をあげ、三役には惜しくも届きませんでした。同年 9 月場所には 11 勝 4 敗の好成績で敢闘賞を受賞。また平成元年(1989 年)9 月場所では横綱北勝海を破り金星をあげるなど大活躍をしました。

しかし、力士生活の晩年は、肘の故障などにより、幕内と十両の往復を繰り返した後、平成 6 年(1994 年)9 月場所で引退しました。最上位は前頭筆頭、通算勝敗数605勝593敗でした。その後若者頭として現役名で協会に残り、日々後輩の指導にあたっています。

引退すると廃業したり、他の職種に移る力士が多い中、地道に相撲社会に貢献する「花の国」は正に郷土の誇る大相撲力士です。



化粧廻しをつけた花の国
(野口家所蔵)



化粧まわしと明荷(あけに)
黒地に藤井寺の木である「満開の梅
の木」が一面に刺繍が施されてい
る。房は錦糸使い。
明荷(十両以上の力士が持つこと
のできる行李。まわしなどをいれる)
(野口家所蔵)



手形 道明寺天満宮

3)道明寺天満宮の八朔相撲

毎年9月1日(旧暦8月朔日)に道明寺天満宮で農家の節を祝う八朔祭と合わせて境内の土俵で奉納相撲(八朔相撲)が行われています。菅原道真公や土師氏の祖先で「相撲の祖」と言われる、野見宿祢に由来したものです。

江戸時代より伝承されてきた奉納相撲は、戦後大阪高校相撲道明寺大会と改められました。さらに現在は小学生による子供相撲大会が奉納され、子どもの健やかな成長を願っておこなうことで継承されています。平成21年の八朔祭りでは戦前に使用された大のぼりも初めて披露され、元気な少年たちの歓声と拍手のなか白熱した取り組みがおこなわれました。

近年大相撲でも外国力士が活躍する中、この八朔相撲をとおして国技である相撲に関心を広げ青少年が、逞しく成長していく糧になってほしいものです。



今回で「ふじいでらの村相撲」は終了します。

ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

(芳尾)

参考文献 藤井寺市史（第2巻 通史編平成14年）、「村相撲と河内十三組」松原
市民ふるさとびあプラザ（平成23年10月）、「今に残る村相撲」柏
原市教育委員会（平成13年）

ご協力者 道明寺天満宮名誉宮司南坊城充興様、佐々木理様（藤井寺教育委員会）、
井関家ご親族（古室）、松井家ご親族（沢田）、野口家ご親族（船橋）、
藤井寺市観光ボランティアの会有志